村上市立村上小学校

村小だより

平成30年２月13日発行

思いをつなぐ、地域も学校も

校長　鈴木　正美

「立春」も過ぎ、暦の上では既に春を迎えています。とは言え、近年希にみる大雪に苦慮するこの頃です。そのような中、関係町内では、子どもたちにより引き継がれている初午行事「御利生(ごりしょ)」が行われたようです。子どもたちは、大人の手を借りながらも、自分の役目をがんばっていたことと思います。そして、その様子をご覧になった保護者や地域の皆様は、ご自分のころやお子様のころを懐かしく思い出されたのではないでしょうか。私もその一人ですが。

さて、学校では「６年生へ感謝の気持ちを伝えよう」と次期リーダーとなる５年生の企画による全校での様々な活動が始まりました。そして、そのフィナーレである「６年生を送る会」を成功させるべく、各学年や職員も準備を進めているところです。

こうして学校では、子どもたちは「感謝と引き継ぎ」、職員は「今年度のまとめ」と「次年度の計画づくり」に本格的に入っていきます。年度の締めの時期、変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

＜全校朝会(1/30)校長講話から(抜粋)＞

一つ目の話です。1月19日、寒さもふっとぶくらい、すごいニュースが飛び込んできました。みなさんがとても楽しみにし、多くの人が参加したり、見物したりする、大好きな村上大祭に関係することです。

村上大祭が、「村上祭の屋台行事」として「国の重要無形民俗文化財」の指定を受けたのです。もっと簡単に言うと、「村上大祭が、日本の国にとって、とても重要で大切なお祭りである」と認められたということなのです。全国では36件目だそうですが、新潟県や村上の自慢の祭りから、国の自慢の祭りの一つに加わったことになります。とてもすごいことですね。

そうなったのも、これまで幾つもの時代を経て、お祭りを絶やすことなく、つないできてくれた村上の先人の努力、それをこれからもつなげていこうと、現在、努力している地域のみなさんのおかげですね。

「ミニ村上大祭」をがんばった3年生に聞いたところ、今年のお祭りは、始まってから385年目になるそうですが、どんな祭りになるのでしょうね。

二つ目の話は、今週土曜日の「節分」についてです。「家で豆まきをするよ」という人も多いと思います。いったい「節分」とは、どういう日なのでしょうか。「節分」とは、暦の上での季節の分かれ目で、次の季節になる前の日を「節分」と言うのだそうです。春(立春)になる前の日、夏(立夏)になる前の日、秋(立秋)も、冬(立冬)もです。つまり、「節分」は、1年に4回もあるのです。

でも、豆まきするのは、2月の節分の時だけですよね。どうしてなのでしょうか。

調べてみると、昔の日本では、2月の春になる日(「立春」)から新しい年が始まっていたそうです。 そのため、4つの節分の中でも、2月の節分は大切な日だったのだそうです。今で言うと、大晦日(12/31)にあたるわけなので、新年に福(幸せ)を呼ぶために、悪いことを起こすものをはらう、様々な行事が行われるようになり、やがて、節分と言えば、2月の節分のことを言うようになったのだそうです。

また、豆まきをするのは、昔は災害や病気などの目に見えない恐ろしい出来事は鬼のしわざであり、特に新しい年や季節の変わり目に鬼がやっくることが多いと考えられていたため、節分に豆をまいて鬼退治をするようになったのだそうです。